

## 第 2 5 回 学校対抗英語ディベート大会

1. 日 時： 2019 年（平成 31 年）2 月 5 日（火） 13:20～16:30
2. 参加校： 兵庫県立尼崎小田高等学校 国際探求学科 2 年生（39 名）  
 兵庫県立姫路飾西高等学校 普通科（グローバルコミュニケーションコース）2 年生（40 名）  
 兵庫県立加古川西高等学校 普通科（国際市民類型）2 年生（40 名）  
 東洋大学附属姫路高等学校 2 年生（40 名）
3. 場 所： 兵庫県立姫路飾西高等学校 兵庫県姫路市飾西 1 4 8 - 2（Tel：079-266-5355）
4. 日 程（予定）：

13:20	受付
13:30	司会者・主審査打ち合わせ(場所：食堂)
13:45	開会式(会場：食堂) (会場校管理職・各校生徒代表等挨拶)
14:10	試合会場へ移動(各試合会場：普通棟 2 階 H R 教室[9 会場])
14:25	第 1 試合開始
15:05	試合終了、会場移動
15:15	第 2 試合開始
15:55	試合終了
16:10	閉会式(会場：食堂)

### 5. 討議論題：

Japan should legalize voluntary active euthanasia.

「日本国は、本人の意思による積極的安楽死を合法化すべきである。是か非か。」

（第 12 回兵庫県高校生英語ディベートコンテストと同一論題）

### 6. 実施要領：

#### (1) 試合時間

順番	内容	時間
1	Affirmative Constructive Speech (肯定側立論)	4 分
	Strategy Time (作戦タイム)	1 分
2	Negative Cross Examination (否定側尋問)	3 分
	Strategy Time (作戦タイム)	1 分
3	Negative Constructive Speech (否定側立論)	4 分
	Strategy Time (作戦タイム)	1 分
4	Affirmative Cross Examination (肯定側尋問)	3 分
	Strategy Time (作戦タイム)	2 分
5	Negative Attack Speech (否定側アタック)	2.5 分
6	Affirmative Attack Speech (肯定側アタック)	2.5 分
	Strategy Time (作戦タイム)	2 分
7	Affirmative Defense Speech (肯定側ディフェンス)	2 分
8	Negative Defense Speech (否定側ディフェンス)	2 分
	Preparation Time (準備タイム)	2 分
9	Affirmative Summary Speech (肯定側まとめ)	2.5 分
10	Negative Summary Speech (否定側まとめ)	2.5 分
	Judgment (審査)	
合計		37 分

#### (2) 出場人数

各高校より原則 40 名（1 クラスの全員）が参加する。

1 クラスの全員が参加する場合、1 チーム 4～5 名とする。

帰国子女は各チーム1名のみ出場を認める。  
4校から合計36チームが出場、計18試合を9会場で2回に分けて実施する。

### (3) 司会・審査・組み合わせ

司会は各校のJTEが1名で担当する。

審査は各校のALTで担当する。

勝敗は審査員の得点で決定する。

試合会場および組み合わせは別紙一覧表に掲示する。

### (4) 実施細則

Constructive Speech (立論) は1名以上で実施。

制限時間(4分)をこえても発言は継続できるが4分15秒で発言を制止する。

Cross-Examination (尋問) は3人以上で実施すること。

2人以下の場合は3点を減点する。制限時間を超えて発言できない。

Attack Speeches (反駁) は、3人以上で実施すること。

2人以下の場合は3点を減点する。制限時間を超えて発言できない。

Defense Speeches (防御)

Summary Speech (まとめ) 制限時間2.5分を超えて発言できない。

審査基準については、別紙審査用紙の「審査基準」及び「その他の注意事項」に準ずる。

### (5) 運営

各校生徒が以下の仕事を分担し、各会場の運営を行う。

計時係(各校2名、他校の出場班を計時)

受付係(会場校生徒の1年生、受付および誘導)

### 【参加生徒アンケート(尼崎小田)】

- ・ 始めの頃より発言できるようになったりメモを取れるようになったりするにつれて楽しいと思えるようになった。
- ・ 初めて聴く相手の立論に対して尋問とアタックをすべて英語で行うのはとても大変だったが、チームのコミュニケーション力と、自分自身の英語力がとても上がったと思う。安楽死のことは初めて知ったが、深く考えるきっかけになった。
- ・ リスニングの力が上がった。論理展開やリサーチの大切さを学んだ。
- ・ チーム内にはそれまでほとんど話したことがなかった人もいたが、ディベートを通して協力しあうことができたと思う。私は試合の勝敗より内容を気にするよう心掛けていて、次はもっとこうしたらということを考えていたところが良かったと思う。
- ・ 全員がまとまりきらなかったことが反省点だった。
- ・ 違うテーマでまたディベートをしたい。
- ・ もっと時間をかけておけばよかった。
- ・ 最初は戸惑ったが時間をかけるにつれて自分の役割がわかり、それをしっかり果たせたと思う。普段は安楽死について考える機会などないが、今後の自分の生き方について考えるきっかけになった。
- ・ 相手の英語による質問に瞬時に対応できるようになった。
- ・ 何度も悔しい思いもしたが、試合で弱点をつかれたところを後で調べて、対抗できるような論拠を見つけたときに次への自信とつながった。
- ・ 他校と試合することにより刺激を受け、試合後にできた点や改善点を見つけることができ、自分たちの成長につながってとてもよかった。
- ・ 相手の論点を理解し、効果的に尋問やアタックができるようになった。
- ・ 英語が得意な他の生徒に頼りすぎていたのが反省点である。

### 【大会結果】

10月から国際探求 で取り組んだディベート学習の成果として、全員参加の学校対抗ディベート大会に参加した。今年度は姫路飾西高校での開催となった。本校は肯定4チーム、否定4チームに分かれて全8試合を行い、3勝の成績となった。各校ともよく準備されており、レベルの高い大会となった。次年度は加古川西高校で実施予定。

【大会の様子】



(Aチーム)



(Bチーム)



(Cチーム)



(Dチーム)



(Eチーム)



(Fチーム)



(Gチーム)



(Hチーム)

